

加温ハウス栽培「大将季」における節水管理移行期の目安となる果実品質

「大将季」の節水管理への移行は、8月以降の果実のクエン酸含量1.8g/100ml以下となる時期が目安

背景・目的

- ・「大将季」のブランド品質基準は、糖度13°Brix以上かつクエン酸含量1g/100ml以下
- ・産地では5月以降、果実肥大とクエン酸含量を下げるためかん水し、8月以降、糖度上昇のため節水管理へ移行
- ・節水管理へ移行する判断となる果実品質の目安が必要

成果の内容

- ・8月以降のクエン酸含量が1.8g/100ml以下となる時期を目安に節水管理へ移行すると、収穫期(12月上旬)にはクエン酸含量は1g/100ml以下になる。
- ・節水管理移行期と収穫期の糖度に相関はないため、糖度は節水管理移行の目安には適さない。

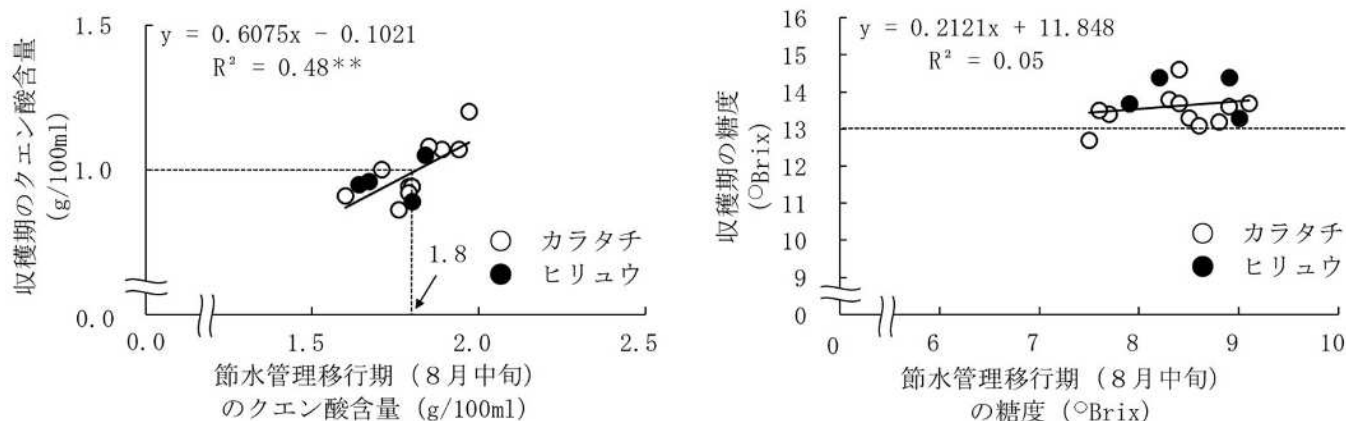


図1 節水管理移行期と収穫期の果実品質の関係(R1~R3年度)

注) **は1%水準で有意であることを示す

期待される効果

節水管理への適切な時期の移行



加温ハウス栽培「大将季」の高品質果実の安定生産



○普及対象・範囲 加温ハウス栽培「大将季」の指導者

鹿児島県農業開発総合センター
果樹・花き部常緑果樹研究室